

チエスキーレ・クルムロフで行われた

「真正バロック・オペラ復興」の試み

新たな演出の一例で、当時の演劇、舞台芸能と並んで公演は、バロックの世界を理想的に浮かび上がらせた。

チエスキーレ・クルムロフ城内劇場での公演は、バロックの世界を理想的に浮かび上がらせた。

18世紀に最初期を過ぎながら、その後空き家となってしまった。

それが今、再びアートとして多くの観客が喜んでいます。

ある演奏がまたまたモダンである。

それらの演出は況況度を現代に運び入れたのです。

その他の劇場は、運営の面で

運営が止まっているのです。

それでも、今のハレ・ヘンツォフ

エスカーヴィルにおけるハーデル

オペラ「アントニオ・カルロ・城主

しかしりやう」(6月9日)、ハレ・



チエスキーレ・クルムロフ城

バロック時代の再現をめざして

チエスキーレ・クルムロフ城内劇場、「アントニオ・カルロ・城主」(6月9日)公演の模様。

H F J雑誌掲載「グランド・オペラ」2006秋号 p. 42-43 三澤寿喜(H F J実行委員長)



作曲家演奏するオーケストラ



文：写真：H.三澤寿喜(ハーフルーム) ●
Text and photo: H. Mizuki (Half Room) ●